

# いじめ問題のロール・プレイングを教員研修で取り組む

小・中学校の教員研修、学級現場での活用に向けて

高橋 秀和

(アウェアネス&グロースアプローチ研究)

いじめ ロール・プレイング 教職員研修

## 自主ワークショップの目的

2022年12月、文部科学省は『生徒指導提要』を改訂し、新たに、いじめの未然防止教育の取り組みに『学校においては、(教科としての)道徳科や学級・ホームルームなどの時間に、実際の事例や動画など教材に生徒同士で検討したり、いじめ問題のロールプレイを行ったりするなど、体験的な学びの機会を用意することが求められています。』との方向性を打ち出した。

『生徒指導提要』にもとづいてロールプレイが活用されるに好機に、対人援助技術、心理技術であるロール・プレイングを点検する好機である。

わが国に初めて外林(1950)により心理劇が、首藤(1950)によりロール・プレイングが紹介され、また一早く、時田(1951)が、学級の児童に適用し効果をあげた実践研究を第11回日本応用心理学会で発表されており、応用心理学とロール・プレイングは縁が深いものがある。

ここ最近では、台ら(2002)によりロールプレイの理論と実際のシンポジウムがもたれたり、高橋(2013)はサイコドラマ、ロール・プレイングをもっと身近にんとするために、保育者など対人援助者の研修に役立つ心理劇について、自主シンポジウムが提供され、ている。

児童・生徒間のいじめは、理不尽であり、心理的な侵襲も社会集団的な圧力も大きく、人間関係を育てるでなく、分断し、人をミゼラブルに孤立せしめるものであり、成人にあてはめるならハラスメントに相当し、対応を急がれる今日的な課題である。

これらの歴史的背景、今日的な課題をふまえて、児童・生徒のためのいじめ防止の体験的な学習に、ロール・プレイングをいかに提供するのが望ましいかを、参加者と体験的に探索するワークショップを提供致するものである。

## 問題

いじめの事例や脚本があつて、その筋書きや台詞にそって配役、演じてみれば、それぞれの人の気持ちになれて、好ましくないと体験的に理解されるかもしれない。演技とは言え、いじめられての嫌な気持ち、いじめて発散、爽快な感じはリアルであり、どう処理されるのだろうか。

テレビで放映されていた金八先生の番組内での金八先生によるいじめの授業は、生徒の立場を逆転させ、今度は、金八先生が、ひたすらいじめた生徒をあげつらい。迫力満点にいたぶるものであった。はたして、生徒役、視聴者がいじめはしないと勝手に至る効果があったのだろうか続編がない。

とある人になってみるロール・プレイングにしても、役割交代にしても、優れて大事な技法であるが、いつ、どう使うのが、判断、選択が求められるところである。

## 方法

事例に即して検討する資料として時田(1961,1974)などあるが、日々の学級経営と連動しており、読解の労大きく、また、当時と今とでは、教職員も、児童・生徒の気風も変化している。

現時点での現場に適用するにあたり、適切な探索方法として、このワークショップでは、今いる教職員同士が対面したと想定し、擬似的にいじめ問題にかかるロール・プレイングのワークを体験し、その体験をお互いにフィードバックし合い、ロール・プレイングの取り扱い方つまり運用力を向上にかかせない観点や技術を確認するものである。

## 模擬的な体験ワークについて

参集してくださった方々に体験していただくワークは、好ましい事例をあげ、体験していただくだけでなく、それをした場合とそうはしなかつた場合との対比を意識していただく。

**ワーク1** 安全、信頼できるグループづくりのためのウォーミング・アップ

**ワーク2** 教育相談領域で、言葉かけ、感受性の訓練になるロール・プレイングとして定評のあるたまごのワーク

**ワーク3** 早川(2017)の提案で始まり、八木橋(2018)など、道徳科で試行されている、直接いじめ体験をしなくても、その場面を想像することいじめ予防の大切さの体験を深める演出法を体験

## 想定されるディスカッションの内容

①グループ、学級づくりには、正直に感想を話せる関係、取り上げる事象やテーマについて、余裕をもって感じ、考えを深め合っている柔軟性が大切である。

②人は、相手役の言葉かけに影響され、言われた本人にしてみれば、敏感に感じ、感情が動く。対処、反応の仕方も、聴いているうちに高まってくる。

③大人と言えども、いじめられる役になつてみると、いかにストレスフルで、きついか判る。児童、生徒がその役になつてみるのは、いかになものか。

④職員研修は、大人同士で、大人のグッドフォローも入り楽でしたけど、学級では、大人は担任のみ。日頃から学級の生徒の感性や理解力を育てること、担任が児童生徒の心情を察し、寄り添う力が大切。心理劇で言う補助自我、特にダブルのセンス、機能を担任がふくらし発揮してこそ、成功裏に運べる。

⑤今かかえている個別固有の事例で検討したい。

## 文献

時田光人1974 教育心理劇の構想 日本文化科学社  
外林大作監修千葉ロール・プレイング研究会編 1981 教育の現場におけるロールプレイングの手引 誠信書房

早川浩隆編 2017 実感的に理解を深める！体験的な学習 役割演技でつくる道徳授業 明治図書

(たかはし ひでかず)